

- 何でも言える●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉= AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

あごら

MINI 〈63・64合併号〉
8月は休刊します
1982年7月10日発行 ¥100 千45

今月のなかみ

〈編集担当・事務局〉

表紙のことは 十周年おめでとう……増田れい子……………1	7月31日・8月1日は〈あごら〉10周年記念全国大会……………2	署名は国連に「たしかに見届けました」……………2	反核・軍縮カンパ使途は全国大会で検討……………2	八五年世界会議に関し要望書を提出……………2	全国大会を前に〈あごら〉のQ&A……………3	自分の会費ぐらいは自分で稼ぎたい方へ……………4	あめりかだより① 署名簿は国連にノ……………5	情 報 女のつどい・女の講座……………8
------------------------------	----------------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------	-------------------------	----------------------

『あごら』十周年をまずお祝いしたい。(へあごら)の活動を見ていると、女の情熱(解放という目標に向っての)の限りなさを肌で感じて、私はいつも「希望」を取り戻すのだ。新聞記者になって二十九年。なぜ、新聞記者を選んだか、というところ、戦争中女学生で動員され、米機の空襲を何度か受け、目の前で人が死に、住んでいた村の若者の多くが白木の箱に入って帰ってきた。もの書きの両親は戦前から特高に狙われ、それでもなおかつ地道な活動を続けながら地を這うようにして戦中を生きた。二度と再び戦争を起す国家権力にふみにじられたくない、そのためには、権力に抗する言論機関がなければならぬ、平和で、人間が人間らしく生きられる世の中にするには、新聞を私たち当たり前の人間のよりどころにしなければならぬ、そんな思いにかられて、新聞記者を選んだのであった。ふまれても、けられても、私はその初心を捨てずに来た。

しかし、大マスコミの大組織の中に組み込まれた一人の記者は、実に不自由な存在であることもたしかだ。二十九年、私は社内で行われる陽の当る部署にいたことはないし、また権力機関に近いところでの取材活動をする

十周年おめでとう

増田れい子

チャンスは、ほとんどなかった。いつも権力からもっとも遠い部分での取材活動が割り当てられた。ただ、もっとも遠い部分に、権力のはき出す汚泥によって苦しめられている人間、それとたたかう志を持った人間がいることもたしかで、私はそのような人間を描くことにエネルギーを注いできた。草の根の声を大マスコミにつなげる仕事は、私の仕事の中心なのだ。

〈あごら〉とは、必然的にめぐりあうことが出来た。そこには、草の根の女たちの、草の根にして持ち得た思想、眼力、哲学、情熱、問題提起と研究、運動があった。大マスコミが男のマスコミであれば「あごら」はまさに名実共に女のミニコミで、見かけは小さく地味だが、ガン丈な提防をこわす、蟻の一穴のような力を秘めている。

「アンアン」クロワッサン「ダカーポ」を創刊した甘糟章氏は「あごら」のような女の手による女のミニコミに瞠目している、と私にいった。必要あって生まれたジャーナリズムの力と美がそこにある。自力のジャーナリズムの手ごわきがある。大マスコミはミニコミに学ばなければならない時代に來ている。

『あごら』創刊10周年記念論文募集!!

1972年2月創刊の『あごら』10周年を記念して下記のとおり記念論文を募集します。ふるってご応募ください。

テーマ

『基本的人権としての女性解放』

女性差別は基本的人権の侵害であることを理論的に裏づけるもの。法律・経済・社会など、どの面からのアプローチでもかまいませんが、新鮮な視点を持ち、十分な説得力のある、筆者独自の「論」を期待します。

締切り 82年8月31日(消印有効)

枚数 四百字30枚前後(千字以内の概要をつけること)

選者 天野正子/大脇雅子
久場禧子/高良留美子
駒尺喜美/中村智子
水田珠枝/山下智恵子
及び〈あごら〉責任者

送付先 〒160東京都新宿区新宿1-9-6あごら論文係

発表 『あごら』27号(82年12月刊)に掲載の予定

賞金 入選 10万円
佳作 3万円

7月31日・8月1日は

「あごら」10周年記念全国大会

語り合おう／ひびき合おう／

戦争へ、世界的な雲行きが怪しい中、私たちの日常生活は、ますます重い意味を持ちそうです。そして、女の情報資料誌「あごら」を出し続けることの意味も——。日々の暮らしの中で思うこと、迷うことを卒直に出し合いながら、これからの方向を考えませんか。お誘い合わせ、ご参加ください。宿泊人員には限りがありますので、宿泊の申し込みは、できるかぎりお早く。

(お子さん連れの方は二人部屋になります。3190円×2＝6380円が宿泊費です)

あごら全国大会スケジュール

1日目 7月31日(土) ひろがる＜あごら＞

(於 新宿厚生年金会館)

15:30～17:00講演「小説 熊沢光子

—あるハウスキーパーの生涯—

山下智恵子(作家)

17:00～18:00いま私はこれが言いたい

(各界女性の3分スピーチ)

18:00～20:00語り合おう、ひびき合おう!

(立食パーティ)

20:30～? 分科会(和室)

①職場の悩み、家庭の悩み

(コンサルタント、高橋ますみ)

②考えよう!「あごら」を「ミニ」を

(コーディネーター、事務局)

2日目 8月1日(日)＜あごら＞トークイン

(於 四谷 主婦会館)

9:00～11:30これまで、そしてこれから

(各拠点その他の活動報告と

対談)

13:00～14:00いま平和を考える

(アメリカ報告とスライド、

斉藤千代)

14:30～16:30公開運営会議兼拠点間会議

署名は国連に

「だしかに見届けました」と

斉藤千代さん

2月10日から呼びかけた署名活動には、3か月たらずの間に「あごら」だけで5859名の署名と40万7679円のカンパが集まりました。6月10日の署名簿提出式を見届けようと、責任者の斉藤千代さんが急拠ニューヨークに飛び、6月12日の同市での10万人デモ、

17日のホノルルでの汎太平洋非核地域要求集会等に参加、真つ黒にデモ焼けて帰国しました。

「みんなの燃える思いを伝えたいという一念で行って来ました。署名簿提出をたしかに見届け、平和行進に参加しました。話したいことが胸にあふれてるけど、あふれすぎて、今はまだ、ことばにならない感じ」と言う斉藤さんの概要報告は別記のとおりです。

反核・軍縮カンパ

使途は全国大会で検討

カンパのうち、国民連絡会議、婦人の行動を広げる会等に納めたお金をさしひいても、なお若干の残金があります。使途として

◆「あごら」独自の反戦パンフをつくる

◆「あごら」独自の報告書をつくる

◆各拠点を取り、報告会を開く

◆会員による「戦時中の記録集」を出版するなどの提案が出ていますが、8月1日の全国大会で使途を決定したいと思っています。なお斉藤さんの旅費は全額個人負担です。

八五年世界会議に関し

要望書を提出

八五年の世界婦人会議のテーマが広く各国の民間婦人にも求められていることを知り、運営会議では、四八団体の共通要望事項(太平洋地域準備会議の東京での開催、婦人の十

年の十年間延長)に加え、「平和」「南北格差是正」を特別テーマとして要望しました。

一九八二年五月三十一日

「あごら」運営会議責任者

斉藤 千代
高橋 ますみ
福田 光子

一九八五年国連婦人の十年世界会議開催に際しての要望

国連婦人の地位委員会での検討に基づき、国連経済社会理事会は各国に対し、一九八五年の会議の目標と特別のテーマについての意見を一九八二年七月までに提出するよう要請し、民間の意見も十分検討する旨付言していることを知りました。

私ども「あごら」は、国連経済社会理事会の諮問的地位をもつNGOではありません。しかし、世界行動計画および国内行動計画の目標達成のため、微力ながら誠実にとりくんでいる婦人団体の一つとして、政府に対し左の事項を提案し、国際協力推進の立場から政府がこれを取り入れて、国連に提案されることを要望いたします。

一、一九八四年に開かれる一九八五年国連婦人の十年世界会議に向けてのアジア太平洋地域経済社会委員会地域準備会議を東京で開催するよう要請します。

二、世界行動計画の目標達成のため、国連婦人の十年(一九七六年—一九八五年)に続いて次の十年(一九八六年—一九九五年)を設定するよう要請します。

三、特別テーマとして「平和」と「南北格差是正」を設けるよう要請します。国際状況悪化の現在、最も必要なテーマであると考えます。

総理府総務長官 田鍋国男殿

全国大会を前に

〈あごら〉のQ&A

創立以来のメンバーはともかく、新しい方がたの中から、〈あごら〉について、もっとくわしく知りたいという声をよく聞きます。事務局に寄せられる質問の中から、比較的多いものにお答えしたいと思います。

Q 「あごら」本誌のつくり手について。

A 毎号のテーマを「ミニ」に発表し、編集会議に参加する方を募集、その中で企画を練りながらつくっています。編集会議は、ふつうの雑誌の編集会議とは趣きを異にした、いわば学習会で、編集経験のない方でも、会員なら誰でも参加できます。

Q レイアウトや校正などの作業は？

A 編集会議に参加している未経験者と、創造力銀行に登録しているプロとで、一緒にこなっています。かわりながら覚えていく仕組みです。

Q それは有給ですか？

A 全くのボランティアでは、特定の人しか参加できないため、ごくわずかではあります。謝金が出ます。ページ単価で、レイアウト120円、校正150円、テーパーほどこ1時間3600円、リライト1枚240円、執筆原稿1枚1000円、書評1点500円、インタビュー1点6000円、新聞切り抜き1枚600円、切り抜きリライト1件30×60円（内容により異なる）編集部につめた場合の時間給は450円です。

Q 基金とは。

A 「あごら」の発行資金として、「あごら」をせひとも存続させたいと思う人たちが出し合っているお金です。一口千円、何口でも拠出できます。将来〈あごら〉が黒字になったときには配当が出る建前ですが、現在までは残念ながら、無配が続いています。

82年6月現在で、基金の総額は905万5428円に達していますが、78年までは毎年赤字でしたので、その穴埋めに使われ、現在貯金帳に残っているのは2万6748円です。基金をお寄せになった方には、通し番号入りの領収証を必ず発行しています。これは将来の配当（あり得るかどうかは約束できません）の際の証拠にもなるものですので、必ず保存して下さい。お願いしています。

Q 累積赤字が解消されれば、基金の利子だけでなく、活動資金が出るわけですね。

A 基金の額が非常に大きくなれば、それも可能だと思えます。しかし現実には、まだまだ会員数も、雑誌「あごら」の販売数も少ないので、当分は年間赤字を出さないというこだけで精いっぱいではないでしょうか。

Q 81年度はすいぶん巨額の赤字が出たようですが……

A 残念ながら、約250万の赤字が出ました。いちばん大きな理由は、会費の納入状況が悪かったことです。

従来BOCが負担していた編集費、販売費の実費を払うようになったこと、専従の事務局員を置いた人件費増なども影響しました。79年、80年が、わずかとはいえ黒字でしたので、気のゆるみもあったと思いますし、事務局体制も不十分だったと反省しています。しかし、元来、よほど気をひきしめないと赤字が出る

というのが実状ではあります。何といっても、まだ会員数が少ないので。

Q 「あごら」と「あごら」、どちらがうのでしょうか。

A グループの名も、雑誌の名も、同じであごら、それを区別するために、グループは〈あごら〉、雑誌は「あごら」と表示しています。

Q BOCって何ですか？

A 正式名称は株式会社バンク・オブ・クリエイティブティ。〈あごら〉の前身は〈創造力の銀行〉で、女性の創造力を社会的に売り出すことを目標に、1964年に生まれましたが、その社会的な窓口として、法人として設立したものです（法人の設立登記は64年4月18日）。女性の創造力の中では、赤ちゃんをやすとか、家計のやりくりとか、社会的にはあまり評価されないもの（むしろそういうものこそ）売れ出しそうとしたのですが、現実にはなかなかむずかしく、現在では、企画・編集・翻訳・印刷・視聴覚材制作などが主な仕事になり、女が働く実験工房としてのプロダクションといった形になっています。

雑誌「あごら」は、このBOCが主体になつて1972年誕生、その読者からグループ〈あごら〉が生まれたわけですが、「あごら」が生まれたいきさつから、必然的に長い間、実質的にはBOCの職員が、〈あごら〉の支え手になっていました。しかしそれでは、いつまでも〈あごら〉が自立しないので、〈あごら〉の経費は、会員の会費と基金でまかなうよう、経済的分離を完全に、そして精神的連帯はいつそう深めることが運営会議で決まりました。

Q 現在の事務局員は、BOCの職員たそうですが。

A 昨年、BOCの職員以外の会員2名が、事務局専従で試行してみましたが、経済的にやはり無理でしたので、こしはまたBOCの職員が主体になって実務を担当することになりました。ほかに毎週月曜には向後裕子さん、第一第二土曜の午後には宮寺有美子さん、また北村三和子・佐藤陽子・松崎由美子さんが随時、いずれも時給4500円のボランティアとして事務局を手伝ってくださっています。

Q 事務はそれで十分カバーできますか？

A BOCの仕事そのものも大変激務ですが、十分なことができず心苦しいのですが、経理その他は、去年よりはきちんとしてきたのではないかと思っています。しかし、運動体の事務局は、すれば限りがなく、人手はまだ足りないというのが実感です。時給4500円でも、週に1日か2日、手伝って下さる方があれば、ぜひ申し出てください。

Q BOCの構成は？

A 現在の職員は5名（うち1名は病気休職中）、毎週月一金、午前9時半―午後5時まで働いています。職員はもちろん全員〈あごら〉の会員です。BOCの自主出版物を出すほか、他社の編集の下請けなどをして生活費を稼いでいます。仕事のすすめ方は、全員合議のうえ行なっています。将来は出資金も平等に共同経営したいというのが夢です。現在の資本金は現在400万円、株主は14名、全員〈あごら〉の会員です。

Q 職員は薄給なのでありませんか？

A 利潤追求のための会社ではありませんし、〈あごら〉と経済を分離したとはいえず、実質的にはまだまだ背負っている面も多いので、どうしても高給というわけにはいきません。それに、「高給を望むよりは労働時間を短く」

がモットーですので、初任給は高卒が10万6000円、4年制大学卒が13万円(交通手当込み)、昇給は、全員一律年間1万2000円です。賞与はありません。しかし、週間実働労働時間は32・5時間、有給休暇は初年度24日、実働1年後30日、以後、毎年3日ずつふえ、最長は70日です。子連れでもわりなく働ける労働時間を旨指しており、今後とも労働時間を短縮したいと考えています。定年はなく、希望する期間まで働けます。フレックスタイム制(希望の時間に出社する)やジョブ・シェアリング制(たとえば2人で1つの仕事を受け持つ)なども設けていますが、現在は全員出社時間も退社時間も同じです(職員数がまだ少ないので)。

Q BOCは赤字ではありませんか？

A 帳面上では、年間1〜2万円程度の黒字です。しかし、職員の一部には、給料の一部を返上している者もあり、規定どりの給料を全員に払えば赤字になります。自費出版物などを出しになる方は、ぜひBOCで……。また、委託編集や視聴覚教材製作などで、いい仕事がありましたら、ぜひご紹介ください。

Q 創造力の銀行に登録すれば、すぐ仕事ができるのでしょうか。

A 残念なことに、女性の労働力は、まだまだ買手市場で、登録したからすぐ仕事ができるというわけにはいかない状況です。それに創造力の銀行の仕事は十分機能させるのには、どうしても専従が必要ですが、専従を置くだけの余力がまだないのです。ただ、翻訳、編集、タイプ、消書・経理などの仕事は突然舞い込むことも多いので、登録しておかれるとご紹介できる場合もあります。また、ご自分が思っておられる力と、社会が期待する力の

間にかなりギャップがある場合もありますので、「可能性教室」の中に、再就職講座を特設にしています。

Q 「可能性教室」とは何ですか？

A 「人はすべて可能性を持つ」を信条に、人がそれぞれ持っている力をのばしていこうと試みている小さなクラスです。入門と上級の英語教室(外人教師による、日本語をいっさい使わない授業)を常設しているほか、「編集入門」「電算機入門」「アサティタイプ・トレーニング」などを、随時開いています。この秋からは、しま、ようこさんの「フェミニストのための心理学」、斉藤千代さんの「アサティタイプ・トレーニング(話し下手からの解放)」を開講の予定です。以上は東京ですが、「あごら東海」など、地域で「可能性教室」を開いているところもあります。また要望があれば、各拠点に講師を派遣します。

Q 拠点とは何ですか？

A 地域に置かれた「あごら」の拠りどころとでも言いましょうか。現在、旭川から九州まで13の拠点で、毎月例会や勉強会を開き、雑誌「あごら」による学習を基礎に会員相互の交流を深めています。地域の自治体など、かなり活発に働きかけている拠点もあります。

Q 拠点を総括しているのは事務局ですか？

A 事務局は文字どおり事務を行なうところ、拠点は、どことも上下の関係はありません。(「あごら」の会員であるという信頼感、一体感が結ばれつつ、それぞれの地域的情況に応じた活動を、それぞれの拠点の判断で行なっています。責任者は各拠点に1名ずつ置かれています。責任者などとも持ち回り制のところもあり、これもすべて自主判断にまかされています。【あごらミニ】の特集部分

は、各拠点で持ち回り編集していますが、これは、地方の情報を知らせると同時に、参加者の書く力、発表する力を伸ばそうという試みでもあります。テーマは毎月、各拠点で自主的に決めており、内容も各拠点が責任を持ちます。

Q そうすると、全体の方向性をまとめていくのは？

A 運営会議です。(「あごら」の経済的・精神的責任を負う人(現在は17名)で、活動方針案などをまとめ、「ミニ」に発表して、会員全体の賛否をたずねています。現在のメンバーは下記のとおり。○印が最終責任者です。

小島サカエ/小島豊子/後藤多見/○斉藤千代/斉藤靖子/関和子/○高橋ますみ/塚崎美和子/中山紀代子/東由美子/福井浅子/福田光子/三船照子/宮前澄子/山岸沙子/山口のり子/山下智恵子

Q 運営会議の手当、旅費について。

A 会議は年2回以上(82年は4回)開かれることになっていますが、日当はゼロ。昼食代(時には夜食代が必要)も、全員自己負担です。ただし、旅費は実費の半額が支給されます(半額は自己負担)。

Q 運営会議のメンバーは、拠点代表ではないのですか？

A あくまでも個人参加です。しかし拠点の責任者を兼ねている人も多く、そういう方々は、議題を拠点会議でもはかって、なるべく多くの人の意見を反映させるようにしています。

Q 任期は？

A 1年ですが、82年度にかぎり、81年度のメンバーが留任しました。

Q 総会はないのですか？

A 会員が全国に散在しているため、総会はまだ開かれていません。もともと「あごら」は、「あごら」の読者グループから出発したので、規則も設けず(それがいいという説も多く)、ゆるやかな方向性だけを決めていきます。組織としていい加減だという批判もありますが、あせらずに、少しずつ、合意できる部分から合意していけばいい、という考え方です。しかし会員も800人を超えましたので、総会についても考える時期に来ているかもしれません。全国大会で、じっくり話し合いませんか。

自分の会費ぐらいいは自分で稼ぎたい方へ
夫の給料から会費を出すのではイヤ……という声をよく聞きます。でも、年会費程度の収入は、2〜3日のアルバイトで得られる額。(「あごら」や「BOC」の雑用を手伝って頂ければ、とても助かります。(「あごら」は時間給4500円、「BOC」は6000円です。(「あごら」の仕事は、封筒宛名印刷、袋詰めなど。「BOC」は、原稿の消書、外回りのお使いその他。(仕事に貴賤があるわけではありませんが、「あごら」は主としてボランティアで運営しているための差です)また、翻訳、レイアウト、取材、テープなど、家でできる仕事もあります。事務局までご連絡を(多くは専門的技術が必要ですが……)。

「ミニ」6月号の編集担当・武蔵野とあるのは誤りです。正しくは札幌でした。心からおわびいたします。

あめりか・だより① 署名簿は国連に！

たしかに見届けました
齊藤 千代

日本から1500人も代表団が行く、と聞いて、何となくひっかりました。そんなに大勢の人が行くのなら、別に行くことはないという気持ち。日常、しなければならぬこと、したいことが山積、時間もお金もないといづくしの中で、私は足もとのことをしようと思っていました。(あごろ)の会員からは2人ほどの名り出た方があり、それで十分と思っていたのです。

しかし、ぎりぎりになって、2人とも都合がつかなくなり、急に旅立つことになりました。

署名用紙が集まったあとになって、「重すぎるのでニューヨークには全部は持っていかない」といううわさを聞いたとき、胸が痛くなったのです。ひとりひとりの手あかによかれた署名用紙を思い出しました。「ぜったいせんそうしないでね」と、たまたましい子どもの手紙がそえられているのもありました。

集まった署名が、どんなふうに使われるのか、日本の心はどのように世界に伝わるのか、それだけは見届けてこなくては、と思いました。代表団のツアーはすでに締切り。空席待ちということで何日か待ちましたがはつきりせず、個人手配に切りかえ、安い切符探しやら、原稿の先渡しやら、あわただしい時間が始まりました。ちょうど「あごろ」入稿の直前、ただでも目が回りそうな時期。外注を受けている仕事も含め、毎日100枚近々の原稿書

き、飛行機の中まで残りの原稿を書いて、さすがタフな私も、頭の中がカラカラといった感じでたどりついたニューヨーク。6月5日夜8時でした。

翌日は日曜。インタビューしたいと思つているところも全部休み。仕方なく(内心はシメタ?)メトロポリタン博物館へ。大好きな印象派、中でもモネやマネの、日本の美術展とはまるでちがう全容に心を洗われ、折しも開催中のシルクロード展の、敦煌から削りとられた壁画のすばらしさに複雑な感慨を抱き、地下のエジプト室を走り回って、午後一時、赤松国連公使との懇談会(婦人の行動を広げる会主催)にすべりこみセーフ。

赤松さんは「国際婦人年以来の世界の婦人の動きや性差別撤廃条約についての概況、国連軍縮代表部の高橋参事官は、国連とジュネーブにある軍縮委員会の機能や、キューバ危機以来の国際情勢、また非同盟諸国の動きを説明、第一回総会の最終文書をどう具体化させていくかが第二回総会の役割だと説明。出席者から「非核二原則をかける日本が、昨秋の国連総会での核兵器使用禁止協定で反対側(わずか十八か国)に回つたのは許せない」など質問、赤松さんは「自分も戦中派。平和憲法は絶対を守るべき、教科書の右旋回は許せない。平和のために自分も命をかける」と、胸のすく回答。彼女とは共に幼児を抱えなが

ら婦人問題を論じあつた二十年来の仲。すっかり銀髪となつた姿に、さぞ苦労が……と胸を痛めた出会ひでしたが、往年の面目躍如たる発言に、ご健康と健闘を改めて祈らずにはいられませんでした。

夜は聖バトリック大寺院で「平和への前奏曲」コンサート。夕方、ワシントンから駆け付けて下さつたジニーさん(英語教室の創設者、現在ワシントン大学で法律を勉強中)と参加しました。演奏は「国連のためのオーケストラ」。ニューヨークフィルを中心に、カナダ、西独、それに日本フィル、東京フィルなどの各国の音楽家六十人が参加したというところで、少し遅れて会場に着いたため、人、人の波(あとで聞いた話では、三千人参加とか)。チビの私には、何が行なわれているのか、ほとんど見えない状況でした。それに



雨にぬれつつヒッピー風一団とともに
(傘をさしているのがジニーさん)

天井の高いカテドラルですから、音がさまざまに反響しあい、音楽としては、すばらしいとは言いかねるものでした。それでも少年たちのコーラスを聞きながら、不覚にも涙が流れました。この前の戦争のときは、どれほどの反戦運動があつたのか知らないけれど、いま、ここにこうして、人びとが思いを寄せ合つているのだ。それでも、もしかすると戦争は起きるかもしれない……。私たちは今、何をなし得るのだろうか。そんなことを考えていると、知らず知らず、まぶたが熱くなるのでした。

*

7日早朝、宿を引き払い、安宿に引越。国連へ向けてのデモの集結点と聞いたところに行ってみましたが見当たらず、折から町を流しているヒッピーふうの団に加わりました(ニューヨークのいくつもの地点からデモがさみだれ式に出発することになっていたのです。昨夜のどしや降りはいくらか納まつたものの、風まじりの雨。ひろげた「古庄フラッグ」5・23集会のために、古庄さんが急ぎ描いたカラフルな(あごろの旗)の色が流れ出すのではないかと心配でしたが、まあまあ無事国連前到着。小さなステージの前を日本人の大集団が占めています。瀬戸内寂聴さんも駆け付けてくださったとのことでしたが、人ごみにまぎれて見えず。(あごろの旗を見つけて「福岡の新婦人」の方が、「あごろさんにはお世話になつてますバイ」と、わざわざあいさつに見えたのは、(あごろ九州)の余徳でしょう。

ステージでは、大主教、藤井日達上人などの平和アピール。ナムミョーホーレンゲキョーには、外国人たちも一斉に声をそろえて、

うやうやしく頭を下げます(ついでながら、日本人のアピールでは、このナムミヨー・ホーレンゲキョーがいちばん人気があつたようです。日蓮の救国の思いは、七百年を経てなお平和の祈りとしてストレートに通じるのかななどと思ひました)。続いて歌、歌、歌。一節ずつ歌唱指導する。「もう戦争はしない」に、女も男も声をそろえます。声をついにしながら、国境を越えた反戦の思いが、隣から隣へ、ジワッと深まっていく感じでした。

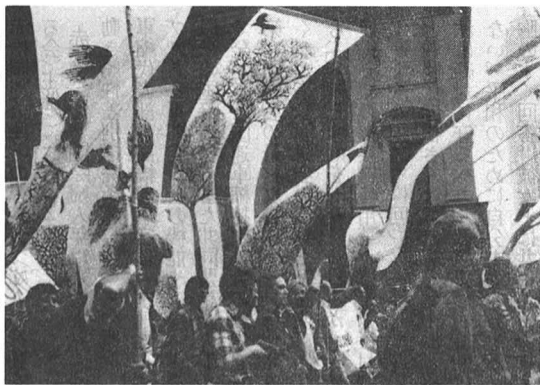
小さな子どもたちが壇上に駆け上がります。世界各国の子どもたち。このままでは一九八五年にはこの子たちは生きていない。殺さないで! 痛烈なアピールでした。

そしてまた歌と踊り。中でもひととき美しい東洋人のプリマをインタビュしてみましたら、滞米十二年という日本人。その出演者はすべて子連れで舞踊団に属していること。ブロードウェイの舞台にも立つ一流のアーティストぞろいであること。みんな反核の思いに燃え、この日のためにリハサルを重ねた、リハサルも本番もすべてボランティアなので経済的には大変だけれど、少しでも反核を訴えられればうれしい、と、きびきびと話す語り口が、何ともさわやかな方でした。

昨夜の音楽会にしても、きょうの踊りにしても、すべて無料出演。3000万円がかつたという5・23集会が、すこしふしぎに思えてきました。

＊

1食99セントから2ドルまでのハンバーガーをかじりながらのニューヨーク暮らし。お蔭で話し合えた庶民の女たちの意見、インタビュして歩いた婦人団体のことは次にして、主な行事を先にご報告しましょう。



エコロジストたちの美しい旗

書いたということ!? 中でも国民運動推進連絡会議の2865万708人の数字が目立ちます。全世界では1億を超える署名がこのことでした。やはり日本がいちばん熱心に署名に取り組んだのでしよう。現実の署名簿は、国民運動推進連絡会議が集めた2865万人分が積み重ねたということですが私の席からは見えすじまい。それぞれの代表が、目録や折りづるなどを手渡して、比較的あつさりと式を終えました。

「世界のすべての人びとが善意と力を合わせれば、核軍拡競争を阻止できるだろう」というデクエヤル事務総長のことばに、本当にそうなつてほしいと心からうなずいたのは、私ひとりではなかつたでしょう。世界を危機から救う最後のとりで、国連に思いを託したひとときでした。

「署名に添えられていたたくさんのお手紙にいちいち返事をさしあげられなくて申しわけなかつたけど、たしかにお届けしましたよ、みんなの心を実現するために、毎日、たった一つでも何か行動しましょう」と、つぶやいた声、聞こえましたかしら。

＊

さて、いよいよ12日、平和大行進と平和集会の日です。インタビュした反戦団体の話では、規模は、「せめて50万は」と願っている」という話でしたが、想像もつかぬ大変なデモになりました。

「集結点は「ヴォイス」に出てくるから見て」とのこと、立売スタンドで「ヴォイス」の反核軍縮特集号(タブロイド判144ページ、75セント)を求めて集結点を調べてみると、三番街から一番街まで、20ほどの通りを埋めて(ということ、東京で言えば(あごら)か

ら新宿駅くらいまでの新宿通りの左右の通りを全部埋めて、ということになるでしょうか、

法律家・芸術家・婦人・レズビアン・カウンセラーなど、AからZまで細かく集結点が示されています。

まず「婦人」というところに行ってみると、国連軍縮総会に先立って国際婦人平和集会を開き大成功だったというWIPLF(婦人国際平和自由連盟)日本支部は(広げろ)の世話役の一つ)はじめ、とりどりの旗とプラカードがはためき、実に意気盛んです。袖をひっぱる人がいるのでふり向くと、10日に取材した(ウイメン・フォー・レイシャル・アン・ド・エコノミック・イコリティー)のグラデーションが、黒い顔をほころばせていました。「NOWはどこでしょう」などと聞いて歩いている人もいますが、誰に聞いても「さあ」自分で探すしかない混みようです。

日本の代表団のいる「国際」は、B.といえば先頭に近そうですが、ここはこの通りにも増して大混雑。その中で目立つ主婦連のおしやもじ目指して近寄ると、中村紀伊さんが真っ白なTシャツの背におしやもじを描き込んで、「クレヨンで描いてアイロンをかけたの」とご機嫌。婦人、有権者同盟、地婦連などの旗もはためいて、「広げる会」の民族大移動といった感じ。そのうしろには、労組や「うたごえ」の人たちが、いかにもデモ慣れた感じで続き、道の外まであふれそう。あちこちの通りから、威勢のいい反戦アピールが流れ、わき起こる拍手。でも、7時から集結しているという日本人の中からは、先頭がつかえて一向に動き出さない流れに、ジリジリした不満の声が聞こえてきます。「やっぱり私は女たちと歩くわ」というジュニ



公園まで5キロの道を埋めた元気にあふれる人びと

ーさんを日地点まで送って、私はデモ隊が迂回する五番街42番地の角で待つことにしました。ゆうべつくった「日本のフェミニストたちは核廃絶を要望している」というプラカードを手にして。ジニーは、彼女のつくったオレンジ色の「核兵器はゴメン……社会的・経済的發展を……」を、角を曲がるときに高々と掲げる、それが目じるし、という約束です。

人ごみをかきわけかきわけ、42番地にたどりついたときには、もう行進は始まっています。飛行機、怪鳥、クジラなど、暗雲を表わす大きなはりぼてが、ゆらゆらと不気味に揺れながら通りすぎる。全員ガイ骨に紛した一団もあります。「狂気をやめよ」「軍拡競争をやめて人類を救え」「議会よ、人民の声を聞け」「坊や(レーガン)から、おもちや(核兵器)をとりあげようよ」など、思い思

いのプラカードが、それぞれの紛装にぴったりに。どれも、いま立ち上らねば人類は滅亡するというギリギリの思いがあふれています。かわいいバトンガールズを先頭に、衆隊の音も勇ましく行進する工場労働者たちは、「核兵器より仕事を」。車いすで繰り出した障害者たちは「軍備はイヤ、税金は福祉へ」。法律家グループは正義を訴え、漫画家は得意の漫画で子どもたちにもわかりやすく核の恐怖を示すなど、実に個性的で、かつ現実感覚に立った説得力があります。まるで70ミリのシネラマを100本も見たような興奮に包まれました。

それに対して、車いすの日達上人と被爆者を先頭に立てた日本人の大集団は、ノーマアヒロシマ、ノーマアナガサキ一本槍という感じ。被爆者が先頭に立つのは何よりも説得力がありますが、もつと多様な訴えがあつても、ハラハラする部分があるのは、やはり身内なのか、おか目八目なのか……。

多様なアピールに、沿道の反応も実に生き生きしています。ビルの窓から長い垂れ幕を垂らす、自分なりの小さなプラカードを打ち振るなど……。そして気に入った紛装やプラカードには、ピーピー口笛を吹いて大歓迎。シユプレヒコールも、共感したものは大声で唱和する。時には沈黙のまま通りすぎようとする一団に、群衆がシユプレヒコールしてはつばをかけます。ハリウッドの一団が派手派手しく現われたときなど、群衆の中から期待せずして、「レーガンはハリウッドにお帰りよ」の大合唱がわきおこりました。グレイパンサーの旗を打ち振る老人パワーが胸を張って歩くと、「よお、税金は、軍備じゃなくて、あ

なた方に……乳母車を連ねた「私たちのそしてあなたの子どものために」の母親たちには、子連れの母親がバラバラと駆け寄って握手するというぐあい。

というわけで、ジャパニーズ・フェミニストを銘打ったプラカードを持つ私のところにも、行列の中から、何人もの女たちが飛び出して、握手を求めます。「私はカナダのフェミニスト」「私はデンマーク」「女たちが核を蹴とばさなくちゃね」。ああ、こんなにも大勢のフェミニストがいる。強く強く握りしめる手を、強く強く握り返しながら、胸がいっぱいになります。戦雲をあやつる巨大な権力と資本。対する私たちの力は、あまりにも小さすぎる。だからこそ手を結ぼう！ 国境を越えて！

シユプレヒコールは、たいいてい短く、歌うよう。顔をふんでいたたり、自然にくり返したくなるすてきなことが多く、小さな子どもたちも、まわらぬ口で口まねします。

「さあ歩きましよう、さあさあ一緒に！」繰り返し呼びかけるのはほとんど女性。どのデモも一方交通じゃない。沿道のみならず共応し、巻き込み、輪をひろげていく。

「きょうはスタート。今度はじっくり話し合おうよ。6月×日に○○で」。ビラを配り配り、熱っぽく語りかける男たち。デモと集会で打ち上げになる日本とは、何というちがいでしょ。誰に動員されたのでもない、ひとりひとり確かな己れ。その己れの内側から噴き上げるエネルギーが、熱く伝わってきた。続く道が、どんなに長い、どんなに険しいか、きびしく見詰め、だからこそ燃えている。目と目を見合わすだけで、心が通じ合うような時を重ねました。(以下、次号)

育ち合い

―保育をわたしたちの手に―

編集・婦人民主クラブ
パンフレット委員会
価 五五〇円
〒二〇〇円

このパンフレットは婦人民主新聞一九七九年二月九日号から約二年間掲載してきたシリィズ「育ち合い」を集録し、なお保育の全体像をつかむために若干の補足・資料を加えたものです。ここに見られるたくさんの実践は、多くの示唆を含むものです。が、産休明けや長時間保育論争にみられるように、特定の保育像を提出したのではなく、意見の隔りは隔りとしてそのままに、今後、子供と共に育ち合う関係を模索する一つの手がかりとなれば幸いです。

- I 保育所はいま
- II 産休明け保育と長時間保育
- III 保育労働者の労働実態
- IV 差別とたたかう保育
- V 男の子育て
- VI 諸外国の保育状況
- VII 保育行政
- 資料編

■送料一冊二〇〇円、二冊二五〇円、四冊まで三〇〇円、七冊まで三五〇円、十冊まで四〇〇円です。

■お申し込みは書記局へどうぞ。

婦人民主クラブ
東京都渋谷区神宮前三一三一八
電話 03440223244

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
7月10日(土)19:30~7月11日		あごら札幌・合宿	参加費1,600円	細田宅 011-644-2927	
11日(日)14:00~17:00		あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	
13日(火)18:00~21:00		日市連 市民サロン「原子力 科学の未来についての一問一答」		家の光会館(飯田橋)	
16日(金)13:00~17:00		練馬区婦人学級「文学における戦争と平和」講師・黒古一夫		連絡 社会教育課993-1111(2765)	
17日(土)		あごら札幌・連続講座「世界の中の日本、食糧事情」		喫茶のあ 011-511-1377	
18日(日)11:00~15:00		あごら大阪・例会		鈴木宅	
13:00~17:00		コンピュータ・O Aの下での婦人労働者を考える集い		東京都勤労福祉会館	
13:00~17:00		あごら京都・例会		シャンバラ	
13:30~		男の子育てを考える会 二大寸劇の競演ノ		新井地域センター2階	
14:00~17:00		あごら浦和・例会 テーマ・日本の家族制度		コミュニティセンター(0488-24-0161)	
19日(月)10:00~12:00		あごら札幌・例会 ポーボワール第二の性第2巻		婦人文化センター第2和室	
20日(火)18:00~21:00		日市連 市民サロン「デモの話——理論と経験」講師・吉川勇一		家の光会館	
19:30~		私たちの男女雇用平等法をつくる会 ティーチ・イン「女が斬る」		東京都勤労福祉会館	
21日(水)19:00~		あごら京王・例会「老い」		新宿・滝沢談話室	
19:30~21:00		82春期「女大学」「アジアに見る侵略戦争の爪あとⅡ」参加費500円		渋谷勤労福祉会館(パルコ向い)	
22日(木)10:00~12:30		あごら東海・例会		名古屋市婦人会館	
24日(土)18:30~21:00		あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	
19:00~20:00		あごら武蔵野・例会		かわら版事務所2424-94-2902	
13:00~17:00		「戦争とは何か?」映画ほか主催・日中友好神奈川県婦人連絡会		横浜市婦人会館 045-714-5911	
31日(土)15:30~		〈あごら〉10周年記念のつどい		新宿・厚生年金会館	
		日本母親大会・大阪・分科会		問い合わせ 大阪 768-5315	
8月1日(日)9:00~17:00		〈あごら〉10周年 全国大会		四谷・主婦会館	
		日本母親大会・京都 問題別集会和全体会		問い合わせ 大阪 768-5315	
8日(日)14:00~17:00		あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	
14:00~17:00		あごら浦和・例会 テーマ・戸籍制度 私生児差別について		コミュニティセンター(0488-24-0161)	
13日(金)19:30~21:00		あごら札幌・例会「女と仕事、(労基法改悪と雇用平等法)」		喫茶のあ 011-511-1377	
14日(土)		国際婦人年大阪 北区の会 第8期婦人問題講座「あなたお元気ですか」		大阪府立労働センター	
		「仕事で起こる病気——現場労働では」 富樫弘子・内田真砂		連絡 大阪 364-1808	
15日(日)11:00~15:30		あごら大阪・例会		鈴木宅	
13:00~17:00		あごら京都・例会		シャンバラ	
20日(金)前後		あごら札幌「いま戦争を考える、連続講座「従軍慰安婦」			
26日(木)10:00~12:30		あごら東海・例会		名古屋市婦人会館	
27日~29日		女性学講座——見直しませんか 女・男の役割——秋山さと子他		国立婦人教育会館	
28日(土)18:30~21:00		あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	
19:00~20:00		あごら武蔵野・例会		かわら版事務所 0423-94-2902	
29日(日)14:00~17:00		あごら浦和・例会 MINI 編集に向けてティーチ・イン		コミュニティセンター	
9月13日(月)19:30~21:00		あごら札幌・例会 あごら26号合評会		喫茶のあ 011-511-1377	

各地のあごら連絡先

- あごら旭川 旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子 01666565237 077811
- あごら札幌 札幌市中央区南25西12ニール藻岩503 高橋芳恵 01156336917 0664
- あごら仙台 仙台市青山1-13 三船照子 0222292712 982
- あごら浦和 埼玉県浦和市南浦和2-19-8 国井マツ江 0488873680 336
- あごら柏 柏市豊四季台3-1-68 古賀節子 0471456724 277
- あごら北東京 豊島区池袋14511メゾン金202 婦人協同法律事務所 志賀由美子 9853308 170
- あごら武蔵野 小平市小川町1-763の86 丹羽雅代 0423436749 187
- あごら京王 調布市仙川町3-12-32 福井浅子 033087871 182
- あごら神奈川 川崎市多摩区東生田2-2-12 森山方 沼田千恵子 0449339079 214
- あごら東海 愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12-9 伊藤汎美 0561392386 47001
- あごら京都 京都市左京区北白川久保田町36-4 塚崎美和子 07579146623 606
- あごら大阪 茨木市西駅前町10-323 遠藤由美 0726233495 567
- あごら九州 福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子 0925217624 810